

色即是空 空即是色

守徳寺かわら版

編集
曹洞宗
守徳寺

怒りは自分に返ってくる

自業自得という仏教の言葉があります。『自分の行いの報いが自分に返ってくる』という意味です。

その昔、お釈迦さまに「怒りの言葉を投げつけた男」がいました。

ある日、お釈迦さまが、お弟子さまと一緒に町に出て、いつものように説法を行っていた時のことです。するとお釈迦さまの後ろから「皆、この男に騙されるな！こいつの話を聞くと不幸になるぞ、私の話を聞け！」と。それは、杖をつき長い髪を腰のあたりまで伸ばした怪しげな男の大きな声でした。すると突然、強い風が吹き砂ぼこりが人々を襲ったのです。

「砂が眼に入って痛い、眼がつぶれる！」とその男は叫びました。

やがてお釈迦さまがゆっくり振り向いて男にこう話しかけました。「あなたは眼の痛みには耐えかねて苦しんでいますね。もし風に向かって砂を投げたらどうなりますか。その砂は自分に向かつて返ってくる。そして自分を汚し痛めます。先ほどあなたは私に怒りの言葉を投げかけました。けれども私はあなたに怒りを持つことはありません。なぜなら苦しむのは私ではなくあなたであることを知っているからです。」

男ははつとしました。「人に怒りを投げつけると、その怒りは自分にはね返ってくる。まるで砂ぼこりのように・・・。結局苦しむのは自分自身なんだ」と。

自分自身なんだ」と。

男はお釈迦さまの前でひざまずき手を合わせて謝りました。その男の眼からあふれ出た大粒の涙はきつと砂を流してくれたに違いありません。



菩薩道とは

今年の秋は自然災害の恐ろしさを改めて知られました。台風15号・19号、そして大雨は、各地に大きな被害を与え、今現在でも避難を余儀なくされている方や、復旧に向けて懸命に作業されている方が大勢います。被災地には多くのボランティアが訪れています。まだまだ足りない所もあるようです。

ボランティアと言うと思い出されるのが『スーパードランティアと呼ばれる尾畠春夫』さんです。尾畠さんは65才の誕生日に商店を閉めて、「第二の人生はボランティア活動に捧げる」と決意されたそうです。またお好きな言葉は「かけた情は水に流せ、受けた恩は石に刻め」であり、ボランティア先では被災地に一切負担をかけないように衣食住はご自分で準備すると言います。そのボランティア活動を根底で支えているのが「ボランティアをしてあげているのではなく、させて頂いている」といふ心を常に忘れないこととおっしゃっていました。

『自分の利益よりもまず他の人の利益を考える人』『自分が救われるよりも先に他の人を救おうとする人』『そういう人を『菩薩』』と言います。『菩薩』という生き方を『菩薩道』といいます。

2020年 標語

日々是好日

にちにちこれこうじつ

昨日悔しいことがありました。一昨日楽しかったことがありました。でも改めて見回してみれば、昨日も一昨日ももうどこにもありません。あるのは今という時だけ。こたわりや、執着を捨てて、今を一瞬一瞬を全力で生きる。そんな生き方ができれば、「毎日が好き日」になるのではないのでしょうか。

令和二年 年回表

一周忌	令和元年
三回忌	平成三十年
七回忌	二十六年
十三回忌	二十年
十七回忌	十六年
二十三回忌	十年
二十七回忌	六年
三十三回忌	昭和六十三年
三十七回忌	五十九年
四十三回忌	五十三年
四十七回忌	四十九年
五十回忌	四十六年
百回忌	大正十年